



学習・言語心理学 2018～			科目コード	FH3561
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2 年以上	柴田 理瑛	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 274「学習心理学」(科目コード：FH3512)を履修登録してください。科目の内容は、本科目を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2019年度の開講後は2021年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2019・2020年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶に関する研究、人間の言語に関する研究の3つの流れがありました。この3つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果についても理解を深めることが本科目の主な目的です。

※この科目の担当教員は、発達支援の実務経験を有します。

■到達目標

- 1) 人の行動が変化する過程について理解し、説明できる。
- 2) 言語の習得における機序について理解し、説明できる。
- 3) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。

■教科書

山内光哉・春木豊著『グラフィック学習心理学—行動と認知』サイエンス社、2001年
(最近の教科書変更時期) 2018年4月

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

篠原彰一著『学習心理学への招待—学習・記憶のしくみを探る（新心理学ライブラリ）』サイエンス社、2008年

森敏昭・岡直樹・中條和光著『学習心理学（心理学の世界 基礎編2）』培風館、2011年

スーザン・ノーレン・ホークセマ、バーバラ・フレデリックソン、ジェフ・ロフタス、クリステル・ルッツ、内田一成（翻訳）『ヒルガードの心理学（第16版）』金剛出版、2015年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では、生体が自己の経験を通して行動を変容させていく過程や仕組みについて学びます。初めに、生体が特定の環境に曝されることによって誘発される学習と、生体が環境に働きかけることで誘発される学習について学び、次に記憶の構造や様々な技能の獲得について学んでいきます。各テーマの代表的な研究だけでなく応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して学習についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	古典的条件づけ	条件刺激、条件反射、パブロフの犬について
2	オペラント条件付け	スキナー箱、強化、強化スケジュールについて
3	条件づけの制約	刷り込み、生物学的制約について
4	技能学習	運動、認知、知覚技能の習熟について
5	記憶	多重貯蔵庫モデル、ワーキングメモリについて
6	記憶の変化	1セントコイン実験や事後情報効果について
7	言語の習得	外言と内言の習得機序について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述でき

るかについて問う予定です（教科書・配付資料・自筆資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の1・2・3・6・7・8章は読んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の1・2・3・6・7・8章は読み直してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	序章： 行動と認知の 学習	学習心理学の歴史とテーマについて概観する。	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	1章： 古典的条件付 けの基礎①	古典的条件付けについて学ぶ。	古典的条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
3	1章： 古典的条件付 けの基礎②	古典的条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	古典的条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
4	2章： オペラント条 件付けの基礎 ①	オペラント条件付けについて学ぶ。	オペラント条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
5	2章： オペラント条 件付けの基礎 ②	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
6	3章： 技能学習①	技能学習の基礎について学ぶ。	技能学習における学習曲線や結果の知識について理解し、説明できるようにしましょう。
7	3章： 技能学習②	技能学習における転移について学ぶ。	技能学習における転移について理解し、説明できるようにしましょう。
8	4章： 社会的学習①	社会的学習における模倣学習について学ぶ。	社会的学習における模倣学習について理解し、説明できるようにしましょう。
9	4章： 社会的学習②	社会的学習における観察学習について学ぶ。	社会的学習における観察学習について理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	5章： 問題解決と推理①	問題解決と推理について学ぶ。	問題解決における特徴や推理の発達的変化を理解し、説明できるようにしましょう。
11	5章： 問題解決と推理②	創造性と熟達者の境地について学ぶ。	創造性と熟達者の境地に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
12	6章： 概念過程と言語獲得①	概念の形成と言語の獲得について学ぶ。	概念の構造や言語の獲得に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
13	6章： 概念過程と言語獲得②	言語と思考、言葉と脳について学ぶ。	言語と思考の関連について、ピアジェやヴィゴツキーらの理論を理解し、説明できるようにしましょう。
14	7章： 記憶と忘却	記憶と忘却について学ぶ。	記憶と忘却に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
15	8章： 有意味材料の記憶と表象	有意味材料の記憶と記憶の表象について学ぶ。	有意味材料の記憶と記憶の表象に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法を具体的に述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

特に教科書の7章がレポート課題に関係します。この教科書には図表がたくさん使用されています。心理学では、図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められますので、図表にもきちんと目を通してください。レポート課題では一つの文章を長くしすぎないように注意してください。長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

2単位めのレポートでは、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、2単位めのレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め
アドバイス

まずは、第7章1節を読み、学習心理学における記憶について、記憶の3つの過程に触れながらまとめてください。書き出しは、「学習心理学で言う記憶とは～のことである」が良いでしょう。次に第7章4節の記憶の二過程説（多重貯蔵庫モデル）の説明を始めてください。書き出しは「記憶の二過程説とは～のことである」という表現が良いと思います。さらに、「今回のレポートでは持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法について考察する」という文言を入れてください。

次に、段落を変えて、記憶の3つの過程や二過程説に関連づけながら記憶力を高める方法について論述してください。次に、段落を変えて、第7章9節を参考に、忘却の仕組みについてまとめ、忘却を防ぐ方法について論述しましょう。最後に、段落を変えて、本レポートにおけるあなた自身の結論を述べて終了となります。

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。